

## CONTENTS

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 56 福井県立若狭歴史民俗資料館	22
芸術文化の風 20 舞踏入門 その2(國吉和子)	23
著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 20 組織・機関における著作物の利用 ～博物館・美術館～	24
言葉と暮らし 8 戸籍の文字	25
伝達地区を見守る人々 伝達歳時記 32 漆工町を守る人々(長野県塩尻市木曾平沢)	26
くらしが育む文化的景観 8 格子状防風林ものがたり(北海道中標津町)	28
広げよう「文化力」の輪! 8 「関西文化の日」!	30
風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 32 現役にこだわる 智頭宿の建造物保存とまちづくり	31
地域からの「文化力」発信 20 咲き誇れ 京ここから 翔びたとう 未来にむかって 第30回全国高等学校総合文化祭「京都総文」	32
日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持者編 5 大場勝雄(雅号 大場松魚)(時絵)	34
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 44 日本刀の姿	35
祭り歳時記 伝承を支える人々 8 唐津くんちの曳山行事(佐賀県唐津市)	36
文化交流使の活動報告 26 ベトナムという国(本名徹次・指揮者)	37
私立美術館、博物館等をめぐる状況	38
第53回日本伝統工芸展	40
京都国立博物館 特集陳列 高僧の書 日本仏教の祖師たち	41
奈良国立博物館 特別陳列 おん祭と春日信仰の美術	42
東京国立近代美術館 フィルムセンター 没後50年 溝口健二再発見	43
国立国際美術館 企画展 小川信治展 干渉する世界	44

連載

文化庁ニュース

イベント案内

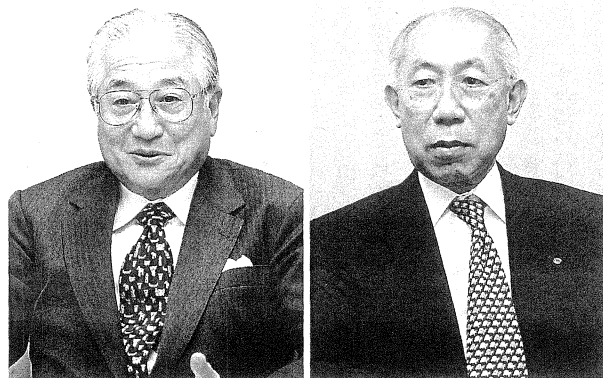
有識者提言 博物館・美術館とは	4
寄稿 九州の誇りの博物館	6
座談会 国立博物館に期待すること	8
施設紹介 独立行政法人国立博物館の五年間と今後の課題	18
福原義春・英 正道・郷 通子・野崎 弘・司吉田 靖	
西高辻信良・袁 豊	
新国立劇場スポットライト	45
12月の国立劇場	46
芸術文化振興基金ニュース	47
題字デザイン 桑山弥三郎	

### 特集 今、国立博物館に何が求められているのか

今月の表紙  
【上】重要文化財「京都国立博物館本館」、【左下】国宝『観楓図屏風』狩野秀頼筆、16世紀、東京国立博物館蔵、【右下】重要文化財『黒韋肩妻取威胴丸』15世紀、東京国立博物館蔵

新国立劇場スポットライト .....45  
12月の国立劇場 .....46  
芸術文化振興基金ニュース .....47  
題字デザイン 桑山弥三郎

# 国立博物館に期待する



吉田 たいへんお忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

国立博物館は、平成一二年四月から独立行政法人に移行して、現在、第二期中期計画の初年度でございます。この間、法人化によって新たな事業展開が可能になるなどの成果もありましたが、一方でさまざまな課題も生じているのではないかと思います。また、文化財保護を一体的に行う独立行政法人を目指しまして、来年四月には独立行政法人文化財研究所と統合することになっております。

本日は国立博物館の在るべき姿は何か、そのための政策はどう在るべきかなどについて、幅広くご議論いただければと思っております。

## 博物館の現状、在るべき方向

吉田 まず、ご出席の先生方からそれぞれの立場でお話しいただきたいと存じますが、最初

法人になったことはかたちであって、実際のミッションはそれとは関係なく存在していると思います。それは何かというと、国民の中における文化の伝承装置です。伝承装置というのは、なにも古いものを集めて、保存して、それを見せるということだけではなく、伝承することによって、現代の文化が育つプラットフォームをつくることになると思っています。したがって、昔は博物館というのは単なる保存伝承装置だけであって、しかしそれでも十分大きな意味はあったのですが、現代になってくると、現代と近未来の文化をどういうふうにつくっていくかというプラットフォームとして、この装置が機能していくことが求められていると思います。

ところが、そういう状況にありながら、今、美術館・博物館の状況を拝見すると、国立であれ、公立であれ、あるいは民間であれ、皆さん非常に苦しい状況になっているわけで、これはなんとかしなければいけない。将来に向けてもう少し明るい展望をもたなければいけないと考えています。

吉田 次に、元イタリア大使で諸外国の文化事情、博物館事情にも精通されています英さんから、外国の博物館との比較もまじえていかがでしょうか。

英 私は、日本の文化環境は、世界でも極めて特異なものだという前提を、まず指摘した

●出席者 敬称略 発言順 写真右から

福原義春 (独国立博物館運営委員会委員長)

英 正道 (独国立博物館外部評価委員会委員)

郷 通子 お茶の水女子大学長

野崎 弘 (独国立博物館理事)

吉田 靖 (独国立博物館本部事務局長/司会)

に株式会社資生堂名誉会長である福原先生から企業経営者としての長いご経験、長年企業メセナ活動にご尽力をされてきたこと、さらに東京都写真美術館長も兼ねられていることもありまして、国立博物館の現状をどう見られているかなどについてお願いできればと思います。

福原 美術館・博物館というのは、独立行政

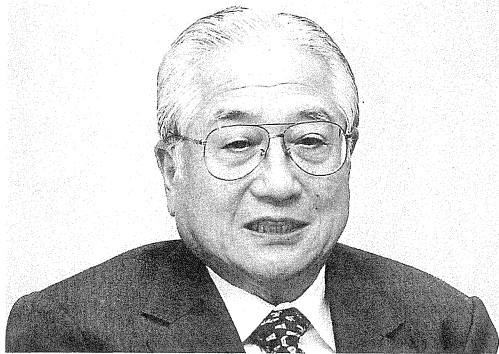
いのです。というのは、日本のように縄文から現在に至るまで、文化が連続として続いている国は、世界にはあまりないということです。

したがって、国立博物館、特に東京国立博物館(以下、東博)の使命は、連続と続く日本の文化を前提とした固有のものを集める場であり、それに伴う文化の伝承、将来の文化創造に貢献するというミッションがあると思います。似たような例が、私が大使を務めたイタリアの最も素晴らしい美術館・博物館であるナポリの「考古学博物館」です。ナポリ周辺から出土したローマ時代の彫刻、壺、モザイクなどを中心とする一級のアート品を収蔵しています。

これに対して、外国の文物とか美術を収集したいという人間の本能に根ざすのが欧米の美術館の流れです。例えばメトロポリタン美術館、ルーブル美術館、大英博物館などです。私は、この区分は重要で、特に東博はこの点を意識した活動をしていただきたいと思っています。

吉田 お茶の水女子大学学長で、教育・学術関係で幅広く活躍されている郷先生からお願いいたします。

郷 私の大学では、「学芸員になりたい」という学生さんが毎年かなりおりまして、今年度から東博が「キャンパスメンバーズ」というのをおつくりになって、本学も加入させていた



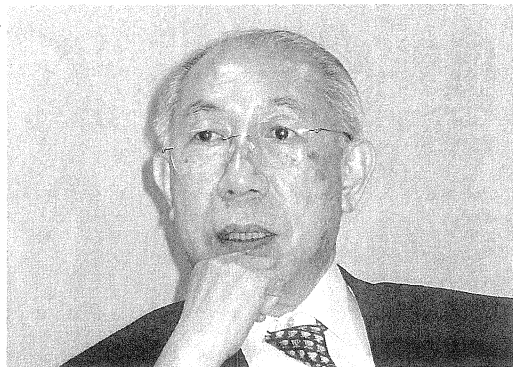
英 正道氏 はなぶさ・まさみち

は一〇億五〇〇万円に上がり、それに伴って運営費交付金が一七年度で六六億円あったものが、一八年度は一挙に六一億円に減ってしまいました。

さらに耐震化対策として、京都国立博物館

の平常展示館の建替えを来年度概算要求の中に入れてもらいましたので、これを実現しているのが当面の大きな課題です。

努力をして、入場者があって、実収入が上がってくると、国からの助成が減ってくるというしかけは、どうにも理解のできないところがあります。



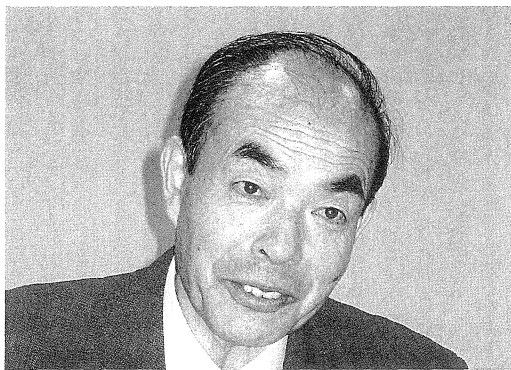
福原義春氏 ふくはら・よしはる

きました。学生さんは一年に何回でも無料で博物館へ足を運べるということと、とてもよいことをご提案いただいたと思っております。

一方、歴史の学び方にもいろいろあると思いますが、今、日本の若い人たちだけでなく、私も含めて海外に出かけたときに、いま一つ主張がないのでしょうか、自信がもてないのではないかと思われます。

すので、理系の人間が国際会議などで集っても、例えばお食事の席などで話題になることは、その国のいろいろな文化や文学、映画の話になるわけです。

一三年度と一七年度を比較しますと、入館者が一六五万人から三二二万人に、イベントは、十数件から二〇〇件を超えましたし、自己収入も七億円から倍の一四億円近くに伸びました。



野崎 弘氏 のざき・ひろし

なるというようなことを皆さんおっしゃいます。私が彼らに聞いているのは、「なぜあなたは日本のほうを評価されるのですか」と。そうすると、日本は中国あるいはインドからいろいろなシーズを輸入してきていますが、それをブランドしてまったく新しいものをつくり上げていくのです。中国は歴史は長いのですが、一つひとつ切れていくのです。それがどうも違うみたいで、こういったことをもう少し考えてみる必要があるし、若い人にそのことを知らせなくてはいけないですね。

英 実は私がニューヨークの総領事をしているときに、アメリカの財界のトップの人から「日本にちょっと行くのだけれども、東京で一、二時間ほど時間があるので、どこの美術館に行ったら日本の文化が見られますか？」という質問を何回も受けて、非常に困惑してしまいました。

東京でサミットを開催したときに東博にお願いして、一部屋か二部屋に日本の代表的な国宝を並べて、レディスプログラムをつくっていただけないかと相談し、実は急遽しらえて対応いただけて、大好評だったのです。

たまたま日韓共催のワールドカップ・サッカーのときに、河合長官の号令があつて、「外国から来る人のために何かやれ」という話があつた。私は非常にうれしくて、レディスプログラムと同じようなことを企画されたらどうかと僥倖ながら野崎さんに申し上げまして、その当時のインドのセット大使が「ナレーターとしてボランティアしましょう」とおっしゃってくださり、オーディオガイドの英語版も作りました。

この「日本美術の流れ展」がたいへん好評だったということで、館長の決断で、本館の二階は全部それをやろうと。あれは日本の若い人、外国の人にぜひ観てもらわなければいけない展示だと思えます。あそこを観ると、さつき福原さんがおっしゃった日本の文化という

のは、いろいろな国からの影響を受けながら、ユニークな文化を育てたという意味では、世界に珍しいものだということがよくわかるのです。

でも残念ながらそれがメッセージとしてはきちんと出ていないと思います。

**国立博物館の進むべき方向、理念**

吉田 文化発信の重要性を強調されたわけですが、そういった取組について、野崎理事長からお願ひします。

野崎 若冲展の話が出たものですから、コメントしますと、確かに若い人が多くて、今までの東博の特別展の中では珍しいことでした。これはインターネットのプログラムでもずいぶん取り上げられて、若い人たちはそういうものを見ながら来館しているということが一つあります。

もう一つ、先ほどコレクターがアメリカ人であるという話が出ましたが、ブライスさんは八〇歳近くになります。今回の展覧会では、出品作品の動物の絵と関連づけて上野動物園と連携事業を行いました。園長さんが博物館へ来て解説をしたり、うちの研究員が動物園へ行つて、動物の前でいろいろな解説をしたりしました。それにブライスさんがついて回りましてね。そういう好奇心が今の若い人たちに通じたのではないかと、感じをもっております。



郷 通子氏 郷・みちこ

東アジアの政治情勢をかんがみますと、日本がよい意味での国家意識といますか、国民意識を育てていかなければいけない時期になっていますから、その中で、日本というのは何だろうと議論するときに、博物館は非常に重大な役割を担っていると思います。

そういう大きな流れの中で、博物館をどうするのだということを位置づける理論武装をきちんとなさつて、アピールしてほしい。また、我々はそういうことを側面からいろいろなかたちで支援しなければいけないと思っています。

吉田 郷先生、いかがでしょうか。

郷 私はこのあいだ、「若冲と江戸絵画展」(東博・七月八月開催・平成一八年六月号四二頁参照)を会期最後のほうに拝見させていただきましたが、ものすごい数の人たちでした。福原 すこかったです。私も驚きました。

郷 驚きましたことが二つありまして、一つは若い方がたくさん来て楽しんでたということです。もう一つは、館員の方が、正門から展示館入口まで非常に丁寧に対応していたことです。今まで博物館は、対応する職員が少なく、そっけない感じのところだというイメージがありました。それは間違っていたことがそのときにわかりました。とてもにこやかに「こちらです」とか、声をかけながらご案内くださった。その二つに驚きました。

一つ目については、若い方たちが話しているのを耳にしますと、いろいろな感受性をもって、「エーツ、あの江戸時代にあんな絵を描いた人がいるんだ」とか、「これはすごく生々しい絵だ」と言っていて、あの展覧会は通常とはまったく違う影響を若い方に与えたのではないかと思います。

二つ目については、館員の方があれだけ全力を挙げて取り組んでいらつしやる姿は、理事長がいろいろなことを改革なさつて、皆さんが努力されていることの表れだと思います。でも、努力した方が報われないというのは、そのうちにへああ、がんばっても実にならない

という思いで、恐らく今のよう状況を長く続けていくのは難しいでしょう。やはりどこかで自助努力の成果がある程度認められるような新しい方針を国としてつくっていかなければ、インセンティブを上げることができないのではないかと思います。

福原 若冲の展覧会についていえば、その価値を発見したのがアメリカ人の実業家であつたというのは、残念というが、日本人の日本の文化を見る目がまだ育っていないからではないでしょうか。

郷 そうですね。そのこともたいへんおもしろいことで、私どもが自分の身の回りをもししたら今でも新しい目で評価していかないからではないでしょうか。

英 それは桂離宮もあそこまで有名にしたのは、ブルーノ・タウトですし、浮世絵もそうだし、例えば草間弥生だってニューヨークでアメリカ人がむしろ評価していますね。

福原 英元大使はイタリア派ですが、私はどつちかというところフランス派でしょう。今、フランスの現状を見ますと、外務省アジア局はことごとく中国派です。フランス人はどつちかというところ、中国のほうに歴史が長い、ものすごい国力がある、人口も多い、大国であるという理由でまず中国のほうに引かれるのです。ところが、だんだん東洋の文化、物を研究していくと、どうも日本のほうがいいということに

文化芸術振興基本法に関連して、もっと文化予算をということですが、私どももまったく同じ気持ちです。収入努力をしないと、文化財購入費などにしわ寄せがいつてしまうのは、何か変だという気持ちも率直にもっております。これは努力せずにほとんどにやるのがいいばんいのかという、ある意味ではマイナス志向になっていくのを私どもは恐れているわけです。

今後の国立博物館の在り方ということで、実は九月一五日に韓国の国立中央博物館で韓中日国立博物館長会議がありました。私もこれに参加しましたが、ここでアジア国立博物館協議会(AANM)が創立され、第一回大会を韓国で開催することが合意されました。

会議では、韓国、中国が国立博物館とおして、自国の文化を世界に発信していくという長期的な視野に立った文化戦略を強く感じました。

アジアの国立博物館間の長期的な協力がこれから大事です。日本の文化は大陸の文化の影響を受けつつ、これを保存し、継承し、その集積の上に独自の文化を育んできたと思います。こうした日本文化の特質を、これから世界にもっと発信していく必要があると考えます。

韓国の国立中央博物館が昨年、九博と同じ時期に開館いたしました、その中に日本室を

つくっております。東博から一〇〇件ほど作品をお貸しし、それが展示されているのですが、あくまでもそれは韓国の美術品を展示する中に、日本の部屋をつくって展示しているということなのです。

東博の東洋館も同様に日本美術と別に東洋の美術を展示しています。アジアのいろいろな影響を受けながらも、しかし日本独自の文化を形成してきたということが、もっと皆さんにわかるような方向性がこれから必要なのではないかと思っております。

福原 今のお話は重要で、韓国の新しい美術館の大きさは、世界で何番目という議論を韓国ではするのです。

韓国ではそういうものを新しくどんどんつくられる国力といいますが、国の文化に対する重要性をお考えになっている。国際競争の中で、軍事力とか、経済力とか、政治力があるわけですが、ジョセフ・ナイが言っているように、文化力というソフトパワーは、非常に大きいウェイトを占めるのです。政治的に多すぎずすしたものがあっても、文化での共同研究とか、相互乗り入れは、まったく支障なく、むしろ政治的ないろんな問題を緩和する作用さえあると私は考えるのです。

そういう意味で、韓中の国立博物館とおつきあいでできるような力をもっていたらいいというのは、研究員たちの力ももちろんですし経済

力ももちろんだと思います。そういうものをもつべき時期にきたのだと思います。

英 そういう意味では、九博は意欲的になごっていらつしやるし、これから活躍の分野が多いいと思います。

私は、四つの国立博物館が一つの組織なので、各館の特色に合わせて所蔵品の大幅な移転をなさった方がいいと思うのです。

それから、日本から韓国の新しい博物館に一〇〇点も貸与されたのはすばらしいと思うのです。

また、「書の至宝展(東博・一二月・平成一八年一月号四二頁参照)はユニークだったし、成功でした。目玉作品は皇室がご持ちになつて中国の王羲之の書の写しでした。唐時代の書は日本にはいくつもあり、そういう意味では、日本はアジアの文化の収蔵庫みたいな面があります。

国のかたちの見直しという機運になつていきますから、日本の文化の伝統継承に関する議員連盟をおつくりになれば、超党派で皆お入りになると思っています。そのようなことは装置として必要だと思えます。そうすると、やはり元気が出てくるし、予算もいただけるようになるのではないかと、元役人的な発想で申し訳ないのですが、そんなこともちょっと考えました。

郷 今のご意見には私も賛成です。博物館を

留学生に観ていただきたい。もちろん留学生は日本で何年か生活するのですが、最初に大学でイントロダクションすることの中で、ぜひこちらの博物館に来て、日本の文化をまず観てもらおう。それからアジアの文化もということができるようになると思います。

るので、その地方のお寺の仏像をご覧になることはありますが、日本の全部の歴史、美術の流れを東博で観ることはすばらしいといへん喜ばれています。

野崎 「留学生の日」を各館で設けております。東博では展示を観てもらおうと同時に、講演会を開催したり、茶室でお茶を楽しんでもらう企画を行っています。参加された皆さんはお互いに写真を撮ったりして交流を深めておりまして、開始から三年ほどになりますが、だんだん定着してきたと思います。

野崎 先ほどキャンパスメンバーズの話が出ましたが、この制度は今年から始めまして、現在一五団体に加入いただいております。

英 留学生とはちよつと違うのですが、ALTという英語の補助の先生として来日されている人が七〇〇〇人おられます。毎年三五〇〇人お見えになるのです。二年、場合によっては三年。本当に日本びいきになって帰る人が大部分です。この人たちが一年に一回か二回、研修で東京に集まります。そのときに、私どもも日本語交流連盟では一〇〇人強を研修が終つてから東博へ連れてきて、ボランティアの人に観覧の案内をしてもらつたり、茶室でお茶を立ててもらっていますが、たいへん好評です。

しかし、加入いただいた学校から来館する学生数が伸びていかなのが悩んでいて、いろいろ工夫をしていかなければならないと思います。

一つは、キャンパスメンバーを対象に一一

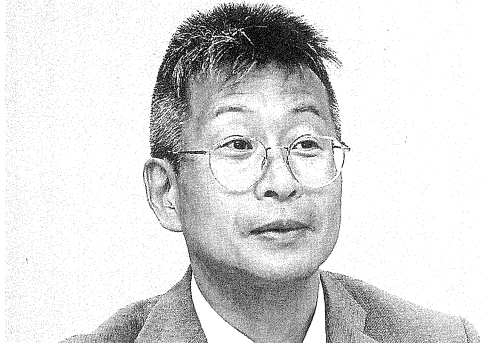
月から博物館セミナーを開催しようと考えています。なんといっても先生方にまず理解していただきませんといくら学生たちに「行け、行け」と言つても、無理なことです。そこで先生方のお気持ちを懇談会を開催して把握し、併せてご希望をうかがいたいと思います。これも「留学生の日」と同じように実績を積み重ねる中で、発展させていきたいと思えます。

吉田 博物館を教育に生かしていくというところで、郷先生いかがでしょうか。

郷 私どものほうも大学の中の宣伝が足りないと思つておりまして、こちらのメンバーズに入っていることを、これからもっと広めていきたいと思えます。

それから、私どもの大学には附属として幼稚園から高等学校までありますので、若い人たちにも日本の歴史を学んでもらうために総合学習の時間に、せつかく近くですから、先生方に子どもたちを連れてきてもらえようなことができたと思います。小学校高学年ぐらいでしたら歴史について、まず観ることから始めていくのもよいしくみではないかと思えます。

野崎 東博では、学校から照会があつたときには、教育普及課が対応するようにしております。



吉田 靖氏 よしだ・やすし

ます。どういう日程で来るのかということも事前に相談いただければと思います。

英 例えばボランティアの人が説明するとかそういうのはすばらしいのですが、ある程度たくさんの方に来ていただかなければいけないし、いちいち説明をするのはとても無理ですし、やはりオーディオガイドはたいへん重要だと思います。

オーディオガイドそのものは、これだけのITの時代ですから、簡単なものができるはずなのです。

数でたくさん来ればいいという時代ではなくて、第二期に入っています、質の問題なのです。どうやってインターフェースしていくか、どうやってコミュニケーションしていくか。究極的には双方向になるべきですが、附帯的な説明がないと、ただ観るだけでは大きな限界があると思います。うまく説明すると、すごく興味がわくと思うのです。

野崎 今の点は重要な指摘で、いちばんのネックは、展示が変わるものですから、今の技術でオーディオガイドを入れるとしても、それを展示に合わせてすぐ直さなければいけません。方向性としてはパソコンにデータを入力すれば、それが展示に反映し、同時にオーディオガイドにも反映するというしくみをつくっていくことだと思います。

英 そのためにもやはりファンドが要ります

に買いたいと思うものが極めて少ない。

福原 模様が埴輪ですね。

英 ええ。すごくいいのですが、外国に持って行って友人に上げたいけれど、箱に入っているかというところではないです。そういうところの知恵を出すと、ミュージアムグッズは収入源にもなると思いますね。

福原 そうです。これはいいですね。

野崎 ちなみにこのネクタイは、亡くなられた坂元前館長の発案でできたものです。

吉田 締めくくりに何かございましたら、ひと言ずつお願いいたします。

福原 大学と留学生のお話が出ましたが、やはり小学校の子どもたちはもっと大事です。だから成果が上がるのは三〇年後だと思えます。けれども、今、種をまいておかないとだめです。小学校のときに種をまくから、大学のときにまたこういうことに興味があつて来て、それが社会生活をするときに、一つの知識の蓄積になっているということがある。

金沢二一世紀美術館で養館長が、金沢市内の全小学校の子どもたちをスクールバスで次々と集めようというしかけをなさったときに、小学生がリポートを書くのです。そのリポートがいちばんよかったのが、四年生だった。今、四年生をターゲットにして徹底的にお集めになっているのです。

なぜかという、三年まではまだ幼いので

から。メセナ活動で……。国家予算はどれくらいだと思います。

野崎 その前に私どもとしても、もつとわかりやすい説明をますする。いい技術をつくって、一般の人がわからない専門家向けの解説ではないということですね。

英 ボランティアの人で、そういうことをやってくれる方はたくさんいらっしゃると思います。知恵を出してくれれば、がんばる人はいると思います。

野崎 メセナの話が出ましたが、私どもも寄附金を集めてまいりました。法人全体で今、五〇〇万円ぐらいの寄附金をいただいております。ただ、今、企業の中で、寄附金だとなかなか出していただけはない。

ニュージランドにテ・パパ・トンガレワという国立博物館があるのですが、来年一月から三月まで東博で同館との交流展「マオリ―楽園の神々―」を開催します。この展覧会はマスコミとの共催ではなく、東博の予算の中で開催します。

そうなりますと、共催展とは違い広報など宣伝費の予算をどう確保するか。実は初めての試みですが、協賛金をお願いしました。

今回トヨタグループのトヨタ輸送とトヨタ海運から、協賛金を出していただけることになりました。

私どもとしては、寄附金も集めなければい

す。五、六年になると進学のことや頭に入ってくる。四年あたりがいちばんニュートラルで、いろいろなことが入りやすいということがわかってきた。そういうことも研究すると、どこに焦点を当てるといちはんいいかということがわかってくるのです。

ファンドレイザーのこともそうですし、アウトリーチプログラムといいますか、子どもたちに教えるプログラムも、要するに知恵の世界です。お金の世界ではないのです。そういう意味で、美術館運営というのはこれからはますます幅が広がってくるし、いろいろな分野で、さらにさらに研究していかないと、博物館・美術館の中でなかなか競争に勝ちえないというところなのです。そうやって競争していただくことによって、国民全体が豊かになってくることも期待できるのではないですかね。

英 博物館・美術館というのは、たいへん有望で、重要で、おもしろい分野だと思います。しかも従来の専門家でない人たちの知恵がけつこう貢献できる分野ではないかと思えます。

郷 博物館がいつも来た場所になってほしいですね。こういういいところだったら、建物を観るとか、風景もすばらしいですからね。もちろん中の展示もすばらしいのですが、この「場」というのが日本の文化、歴史を学ぶ中心として、これから大学生から小学生、一般の方も、何かあつたらすぐ博物館に行ってみま

けません、スポンサーも開拓していくことが大事かと思えます。私どもも企業にどういった働きかけたいのか、もしサジェスチョンいただければ……。

福原 それはなかなかいい言い方がいいところですね。

支援していただいたことに対してどうやってお返しするかという具体的なものがないといけないですね。ただ国家的に大事な事業だから、ぜひ協賛してくださいと。それは建前としてはとありますが、一回のことにはなかなか難しいですね。企業のお名前を顕示することも含めて、どうやってお返しすることができるといふことを組み立てていかなければいけないのです。

そうなると、日本ではまだあまり進んでいないのですが、ファンドレイザー学があるのです。ファンドレイザーの人たちをこれから育てていかなければいけないというのが、私の考えです。

英 どこでもバイスプレゼジデント・フォー・デベロップメントというのがありまして、それがファンドレイザーなのです。副館長が三人ぐらいいらつしやる中の一人はファンドレイザーです。

私は、今日、東博のミュージアムグッズのネクタイをしてきました。このネクタイは外国に行くときのプレゼントにすごくいいのです。しかしミュージアムショップでこれ以外に本当

しようかと。外国からお客さまが来たときに、まず最初に博物館に行きましようかと、ぜひそうやっていただきたいと思えます。

野崎 協力でできることはしたいと思えます。貴重なご意見をいただきました。これから博物館運営に生かしていきたいと思っております。東京国立博物館も資生堂さんと同じ明治五年創立ですが、なかなか定着したイメージがないというご指摘をいただいて、我々も頭をひねっております。

法隆寺宝物館の四十八体仏のようにいつでも観ることができるといふ名品が展示されているのですが、知っている人は知っていると感ぜず、「東博へ行ったらあそこだ」というようなイメージをこれからつくっていききたいと思っております。

ただ、そのためには経費がかかるのですが、資金不足を嘆いてばかりではだめで、もつと知恵を使えというご指摘は、私どももそのとおりで思っています。これからがんばりたいと思えます。

英 大いに協力いたしますから。

福原 両方なければだめなのです。お金だけでなく、知恵だけでも成り立たないし。

吉田 これからの国立博物館にとって貴重なご示唆をいただきました。本日は長時間ありがとうございました。

(一)

◆特集◆

国立新美術館の開館

【文化庁提言】  
国立新美術館の開館

【有識者提言】  
独立行政法人国立美術館  
理事長(ごあいさつ)……………辻村哲夫

【事業紹介】  
国立新美術館の取組

【寄稿】  
国立新美術館への期待  
……………平山郁夫／高階秀爾／黒川紀章

◆文化庁ニュース◆  
第五三回文化財防火デー  
伝統文化でも教室  
日本のわざと美展

編集後記

平成一四年度の社会教育調査によると、日本には約五三〇〇の博物館があるとされています。ひと口に「博物館」といっても、その規模・主な収蔵品・設置者はさまざまです。今回特集しました国立博物館のように、国が設置して国宝や重要文化財を多数収蔵している博物館もあれば、個人が趣味で集めたものを自宅の軒先で展示している博物館もあります。このように日本各地に多様なかたちで存在している博物館の中で、国立博物館の果たす

◆連載◆

- 【いきいきニュージウム美術館 博物館事業レポート】佐賀県立名護屋城博物館
- 【芸術文化の風】新しい「開かれた美術館の場」の可能性
- 【著作権O&A】著作権なるほど質問箱から
- 【組織・機関】における著作物の利用 行政機関
- 【言葉と暮らし】機械翻訳と言葉の理解
- 【伝建地区を見守る人々 伝建歳時記】新選定、和洋建築が残る醸造町(佐賀県鹿島市)
- 【くらしが育む文化的景観】水と人の共生
- 【広げよう「文化力」の輪！】ひととマンガの近しさとは
- 【風を呼ぼう、わが町に】警察官形文化財建造物との歩み
- 【アタタの夢 歴史的砂防施設とエコニュージウム】地域からの「文化力」発信
- 【芸術拠点形成事業】芸術拠点形成事業
- 【日本の伝統美と技を守る人々】鶴澤友路・築太夫館三味線
- 【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】昔の「サイン」のあれこれ
- 【祭り歳時記 伝承を守る人々】祭りに寄せる思い——秩父祭——
- 【文化庁の星】主任国語調査官

ほか

べき使命とは何でしょうか。昨年度、国立博物館が独立行政法人となって初めての中期目標期間終了に当たり、あらためて検討を行い、国民の宝である文化財を収集・保管・展示し、次世代に継承していくことであるという結論に至りました。美術館・博物館の在り方が問われている今、それぞれの館に与えられた使命を再確認し、その使命を果たすためには何をすべきか、見つめ直すことが必要ではないかと思えます。(S)

文化庁月報 11月号 (通巻458)

平成18年11月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyousei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2006 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

時間変更のお知らせ

本誌平成18年10月号41頁掲載の「第56回全国民俗芸能大会」につき、曇の部開演時間に変更となりました。

【変更前】13時30分開演

→【変更後】13時開演

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、

- A 京都国立博物館  
「高僧の薈」2組 (ペア)
- B 奈良国立博物館  
「おん祭と春日信仰の美術」2組 (ペア)
- C 国立国際美術館  
「小川信治展」2組 (ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、11月24日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。

\*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

●ホームページアドレス●  
http://www.bunka.go.jp